



病害虫情報5月の予報

情報提供：神奈川県農業技術センター病害虫防除部

平成 29 年 5 月 1 日

神奈川県農業共済組合

病害虫情報(第2号)5月予報

平成29年5月1日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

【内容】

- I 5月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、カキ、ウメ、チャ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、春キャベツ、ネギ、スイカ、カボチャ、メロン】
- II 5月の気象予報と病害虫発生予想の根拠 13

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、平成29年4月26日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 5月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ばか苗病	—	○	【塗沫処理(30ml/乾燥種籾1kg)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
いもち病	—	○	(予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
イネシנגレ センチュウ	—	○	【種子浸漬(24時間浸漬)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 (予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 等 ◆ イネシングレセンチュウ対策としてスミチオンの使用は必須。 ◆ もみ枯細菌病を防除対象とする場合は、テクリードCを選択。 ◆ 種子消毒で使用した薬剤の廃液は適正に処理すること。
苗立枯病	—	○	(予・治) タチガレエースM粉剤 [は種前,1回] 6~8g/箱 + (予) ダコニール粉剤 [は種前,1回] 15~20g/箱 等
イネミズゾウムシ	—	○	【育苗箱施薬:散布】 アドマイヤーCR箱粒剤 [は種時(覆土前)~移植当日,1回] 50g/箱 グランドオンコル粒剤 [移植3日前~移植当日,1回] 50g/箱 プリンス粒剤 [は種時(覆土前)~移植当日,1回] 50g/箱 ツインターボフェルテラ箱粒剤 [は種時(覆土前)~移植当日,1回] 50g/箱 等
ヒメビウンカ (縞葉枯病)	並 (—)	○	◆ イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する号外を平成29年5月1日に発表。 ◆ 縞葉枯病対策として、ヒメビウンカの防除は必須。 ◆ ツマグロヨコバイの発生が多い地域では、アドマイヤーCR、グランドオンコル、ツインターボフェルテラを使用。 ◆ 白葉枯病の発生が懸念されるほ場では、ツインターボフェルテラを使用。

【防除要否】◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
【使用時期】「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成29年・第2号・5月)

神奈川県農業技術センター

【カンキツ】

生育:遅(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	—	○	(予・治) ストロビードライフロアブル [14日,3回] 2,000~3,000倍 (予) フロンサイドSC [30日,1回] 灰色かび病:2,000~2,500倍 黒点病:2,000倍 等
黒点病	—	○	◆ 灰色かび病は満開~落弁期に防除する。
そうか病	並	○	(予) フロンサイドSC [30日,1回] 2,000~2,500倍 (予) イデクリーン水和剤 [-,-] 400~800倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等 ◆ 灰色かび病や黒点病と同時防除をする場合は、フロンサイドを選択する。 ◆ イデクリーンは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。
かいよう病 (中晩柑類)	並	○	(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 (予) ICボルドー66D [-,-] 25~200倍 + アビオン-E [-,-] 500~1,500倍 (予) イデクリーン水和剤 [-,-] 400~800倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等 ◆ 温州みかんにも発生する。多発園では、落花期に防除する。 ◆ イデクリーンとICボルドー66Dは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。
ミカンハダニ	やや多	△	マシン油乳剤(97%, 98%) ◆ 冬期に防除しなかった園は、春期に必ず防除する。 ◆ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なる。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
- ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

病害虫情報

(平成29年・第2号・5月)

神奈川県農業技術センター

【ナシ】 生育:遅(生産技術部果樹花き研究課:豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	やや少	○	(予・治) インダーフロアブル [7日,3回] 5,000~12,000倍 (予) キノドーフロアブル [3日,9回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [14日,5回] 1,500倍 等
アブラムシ類	—	○	ハチハチフロアブル [14日,2回] 2,000倍 マブリック水和剤20[30日,2回] 2,000~4,000倍 等
ニセナシサビダニ	—	○	ハチハチフロアブル [14日,2回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,3回] 2,000~3,000倍 等 ◆ ニセナシサビダニが原因とみられる、新梢のモザイク症状が増えているので注意する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
 - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
 - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
落葉病	やや少	○	(予) エムダイファー水和剤 [45日,2回] 落葉病:400~650倍 (予・治) ベルクート水和剤 [14日,3回]1,000~1,500倍 等
うどんこ病	—	○	◆ ベルクートは西村早生に薬害を生じるので使用しない。
カキダ アザミウマ	—	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍 等 ◆ 5月上旬までに防除する。
カキノ ヘタムシガ	—	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍 トクチオン水和剤 [75日,2回] 800倍 等
フジコナ カイガラムシ	—	○	◆ 6月上~中旬に防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成29年・第2号・5月)

神奈川県農業技術センター

【ウメ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	—	○	(予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000~3,000倍 (予・治) アミスター10フロアブル [前日,3回] 1,500倍 等
カイガラムシ類	—	○	アプロードエースフロアブル[7日,2回]1,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー)
→単剤あるいはその他殺菌剤との混用の場合:1年2回

【チャ】

生育:遅(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
もち病	並	○	【二番茶の萌芽~2葉開葉期】 (予・治) オンリーワンフロアブル [7日,2回] 2,000~3,000倍 等 ◆ 昨年の秋期、発生が見られた園では、必ず防除を行う。
ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカク モンハマキ	並	○	【一番茶摘採後】 エスマルクDF [発生初期但し7日,-] チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ:1,000倍 【二番茶の萌芽~2葉開葉期】
カンザワハダニ	並	○	コテツフロアブル [7日,2回] カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、チャノコカクモンハマキ:2,000倍
チャノミドリ ヒメヨコバイ	やや少	○	カスケード乳剤 [7日,2回]
チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	チャハマキ、チャノコカクモンハマキ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、ツマグロアオカスミカメ、チャノホソガ:4,000倍
ツマグロ アオカスミカメ	並	○	キラップフロアブル [7日,1回]
チャノホソガ	並	○	チャノキイロアザミウマ、ツマグロアオカスミカメ、チャノホソガ:2,000倍 等 ◆ ハマキムシ類の防除は【一番茶摘採後】に行い、その他害虫の防除は【二番茶の萌芽~2葉開葉期】に行う。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「摘採*日前まで」を「*日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
→単剤の場合:1年1回
→その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

病害虫情報

(平成29年・第2号・5月)

神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, -:ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日、うどんこ病:15g/10a/日
葉かび病	—	○	(予・治) ダイアメリットDF [前日,3回] 1,500倍 ☞ ダイアメリットDFは混合剤。総使用回数に注意する。
うどんこ病	—	○	(予・治) ロブルール水和剤 [前日,3回] 灰色かび病:1,000～1,500倍 等 ◆ 発病部と枯葉を取り除き、施設外に持ち出し適正に処分する。
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○	サンクリスタル乳剤 [前日, -] コナジラミ類:300倍 ディアナSC [前日,2回]
アザミウマ類	—	○	コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 等 ◆ 施設内外の雑草を除去し、収穫終了後は施設を密閉し、蒸し込みで死滅させる。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

マルハナバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤(影響日数の目安):ダイアメリット(不明)、ディアナSC:影響日数1日

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
- ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第2号・5月)

神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント								
べと病	やや少	○	(予・治) ライメイフロアブル [前日,4回] 2,000~4,000倍 (予・治) ホライズンドライフフロアブル [前日,3回] 2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) アリエッティ水和剤 [前日,3回] 400~800倍 ◆ 風通しを良くし、適切な施肥管理を行う。等								
うどんこ病	やや多	○	(予) インプレッションクリア [発病前~発病初期,-] 1,000~2,000倍 (予・治) プロパティフロアブル [前日,3回] 3,000~4,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] 2,000倍 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。等								
コナジラミ類	—	○	カスケード乳剤 [前日,4回] ミナミキイロアザミウマ:2,000~4,000倍 ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 コテツフロアブル [前日,3回] ミナミキイロアザミウマ:2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] コナジラミ類:2,000倍 アザミウマ類:2,000~4,000倍 等								
ミナミキイロアザミウマ	並	○	◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV(キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設内外の除草を徹底するとともに、栽培に関係のない鉢物等を施設内に持ち込まない。 ◆ 収穫終了後は施設を密閉し、蒸し込みで死滅させる。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類	MYSV(キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫										
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類										
BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類										
MYSV(キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第2号・5月) 神奈川県農業技術センター

【露地トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
疫病	—	○	(予) Zボルドー [—, —] 400~600倍 (予) ダコニール1000 [前日, 4回] 1,000倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日, 4回] 1,000~2,000倍 等 ◆ 降雨により土壤中の病原菌が土粒とともにね上がって発病するので、株元にマルチを敷く。												
アブラムシ類	やや多	○	【育苗期後半～定植時: 粒剤施用又は灌注】 プリロツソ粒剤 [育苗期後半～定植時, 1回: 株元散布] 2g/株 モベントフロアブル [育苗期後半, 1回: 灌注] アブラムシ類、コナジラミ類: 1,000倍、25~50ml/株 アザミウマ類: 1,000倍、50ml/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日, 1回: 灌注] 400倍、25ml/株 【定植時: 粒剤施用】 モスピラン粒剤 [定植時, 1回: 植穴土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類: 1g/株 【定植後: 散布】 ベストガード水溶剤 [前日, 3回] 1,000~2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類: 4,000倍 マッチ乳剤 [前日, 4回] コナジラミ類: 2,000倍、 ミカンキイロアザミウマ: 1,000~2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] アブラムシ類、コナジラミ類: 300倍 等 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
コナジラミ類	—	○													
アザミウマ類	—	○													

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合: 1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合: 1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合: 1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合: 1作2回

病害虫情報

(平成29年・第2号・5月) …………… 神奈川県農業技術センター

【露地キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600~800倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] 1,000~2,000倍 等 ◆ 土のはね返りを防ぐためマルチをする。 ◆ 草勢の衰えは発生を助長させるので、適切な草勢管理に努める。										
うどんこ病	—	○	(予) インプレッションクリア [発病前~発病初期,-] 1,000~2,000倍 (予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 等 ◆ 窒素肥料の多用は発生を助長するので、肥培管理を適切に行う。										
アブラムシ類	やや多	○	【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】 プリロソソ粒剤 [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 モベントフロアブル [育苗期後半,1回:株元灌注] アブラムシ類、コナジラミ類:500倍、25~50ml/株 アザミウマ類:500倍、50ml/株 ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] 400倍、25ml/株 【定植時:粒剤施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回:株元散布] アブラムシ類:0.5~1g/株 【定植後:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ :1,000~2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 マッチ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類:2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等 ◆ ウィルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。										
コナジラミ類	—	○											
アザミウマ類	—	○											
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウィルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV(キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウィルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類	MYSV(キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウィルス病	媒介する害虫												
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類												
MYSV(キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												
			◆ ウィルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第2号・5月)

神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
アブラムシ類	やや多	○	【育苗期後半～定植時:粒剤施用又は灌注】 プリロツソ粒剤 [育苗期後半～定植時,1回:株元散布] 2g/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] 400倍、25ml/株 【定植時:粒剤施用】 ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 【育苗期～定植後:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ:1,000～ 2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍
コナジラミ類	—	○	
アザミウマ類	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

【春キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
コナガ	やや多	○	アファーム乳剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [3日,3回] 2,500～5,000倍
アブラムシ類	—	○	ウララDF [前日,2回] 2,000～3,000倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成29年・第2号・5月)

神奈川県農業技術センター

【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [14日,3回] 600倍 等
ネギアザミウマ	—	○	【育苗期後半～定植時:灌注】 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:セル成形育苗トレイ1箱 又はペーパーポット1冊当たり0.5L] 400倍 【定植時:粒剤施用】 ダントツ粒剤 [植付時,1回:植溝処理土壌混和] 6kg/10a ベストガード粒剤 [定植時,1回:植溝処理土壌混和] 6kg/10a 【生育期:散布】 モスピラン顆粒水溶剤 [7日,3回] 2,000倍 カスケード乳剤 [14日,3回] 4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

▼三浦半島地区野菜▼

【スイカ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [7日,7回] 400～600倍
炭疽病	—	○	(予) ダコニール1000 [3日,5回] つる枯病:700～1,000倍、炭疽病:700倍 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 等
アブラムシ類	—	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍
アザミウマ類	—	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 等
ハダニ類	—	○	マイトコーネフロアブル [前日,1回] 1,000倍 バロックフロアブル [前日,2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤(シグナムWDG)の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤(シグナムWDG)の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- ◎ CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(レーバス)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第2号・5月)

…………… 神奈川県農業技術センター

▼ 三浦半島地区野菜 ▼

【カボチャ】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
疫病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [21日,2回] 600倍 (予・治) リドミルゴールドMZ [30日,2回] 1,000倍 ☞ リドミルゴールドMZは混合剤。総使用回数に注意する。 等
うどんこ病	—	○	(予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000～3,000倍 (予・治) ベルクート水和剤 [7日,4回] 1,000～2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ)の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルC、プロポーズ)の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第2号・5月)

神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【メロン】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 つる枯病、べと病:[7日,5回] 400~600倍
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [3日,5回] つる枯病:1,000倍、べと病:700~1,000倍、 うどんこ病:700倍
うどんこ病	—	○	(予) フルピカフロアブル [前日,4回] うどんこ病:2,000~3,000倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回]べと病:1,000~2,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] つる枯病、うどんこ病:2,000倍 等
アブラムシ類	—	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] アブラムシ類:8,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
コナジラミ類	—	○	
アザミウマ類	—	○	
ハダニ類	—	○	マイトコーネフロアブル [前日,1回] 1,000倍 バロックフロアブル [前日,2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- ◎ CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回

▼三浦半島地区野菜共通▼

ミツバチへの影響

- ▶ 影響のある剤(影響日数の目安):スピノエース(5,000倍:2日)、スコア(不明)

病害虫情報

(H29・No.2)

..... 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 5月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 5月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部4月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わるとでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	30%	40%	30%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間*	20%	40%	40%

*4月20日発表1か月予報による。

(2) 5月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稻	ヒメトビウンカ	少	並	1) 越冬世代虫の密度は平年並み。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
カンキツ	そうか病	—	並	1) 昨年の巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	かいよう病(中晩柑類)	少	並	1) 巡回調査では、越冬病斑の発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春先越冬病斑の発生が平年よりやや少ない(—)。 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	ミカンハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
ナシ	黒星病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
カキ	落葉病	—	やや少	1) 昨年の巡回調査では、発生が少ない。(—) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (—): 少発要因

病害虫情報

(H29・No.2)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
落葉果樹	カメムシ類	—	やや少	1) 越冬調査では、落葉内のチャバネアオカメムシ成虫の越冬数が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原、足柄で平年よりやや少なく、県予察ほ(根府川)で平年並(±)。 3) 予察灯への誘殺数は、山北、伊勢原、県予察ほ(上吉沢,根府川)で平年並。(±) 4) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
チャ	もち病	少	並	1) 昨年秋期の発生が、平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(－)
	ハマキムシ類	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップの誘殺数は、山北は平年より多い(+)、県予察ほ(寸沢嵐)は平年並(±)。 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より多い。(+)。 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	ツマグロアオカスミカメ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	チャノホソガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北で少なく(－)、県予察ほ(寸沢嵐)では平年よりやや多い(+) 4) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(H29・No.2)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成トマト	灰色かび病	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並か多い予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
促成・半促成キュウリ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(－)
	うどんこ病	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(＋)
露地トマト 露地キュウリ ナス	アブラムシ類	－	やや多	1) 巡回調査では、ジャガイモでの発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への有翅アブラムシの飛来数は平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(＋)
春キャベツ (横浜・藤沢地区)	コナガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) フェロモントラップ(横浜)への誘殺数は、平年よりやや多い。(+) 3) 県予察ほ(上吉沢)のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや多い。(+) 4) 気温は平年並、降水量は平年より少ない予報。(±)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」..... (＋):多発要因 (－):少発要因